

鉄鋼標準化センター活動報告

1. トピックス

(1) 国際標準化関係

1) SAGE (Strategic Advisory Group on Environment)

環境問題についてISOは戦略的諮問グループを設置し、下記課題の検討を開始。

- | | |
|-------------|--------------|
| (1)環境管理システム | (5)産業動員計画 |
| (2)環境監査 | (6)ライフサイクル解析 |
| (3)環境マーク | (7)製品規格における |
| (4)環境特性評価標準 | 環境問題 |

今後、新しいTC、SCを設置し、環境管理に関するISO規格制定へ動く可能性大。

2) ISO/CEN間技術協力に関する協定(ウィーン協定)

規格の協同作成(連絡文書による協力、既存のISO規格のEN規格としての採用、規格の並行承認、合同調整会議の設置など)を行うことになり、合同調整会議が3回行われた。

ウィーン協定に基づき処理されつつある案件(9月15日現在)は全体として次のとおり。並行投票中の作業項目……………9件

CENよりISOへ移管を決定又は考慮中の作業項目……………98件

ISOよりCENへ移管を決定又は考慮中の作業項目……………38件

3) 鉄鋼標準試料の国際交流

中国と鉄鋼標準試料に関して交流を行い、将来は標準試料を二国間又は国際協力によって製造する方向を前回の「鉄鋼標準試料運営部会」(1992-07-10)で決定した。

その後、10月中旬佐伯委員長訪中時、中国冶金部品質標準局と話し合い、次のステップでの推進を合意。

第1段階：1992-07～11

鉄鋼標準試料に関する技術情報の交換

第2段階：1992-12～1993-12

鉄鋼標準試料を相互に提供、分析結果の交換

第3段階：1994-01～03

協力関係樹立のための具体案の協議

(2) 国内標準化関係

1) 対談：21世紀に向けた鉄鋼業と国際標準化
工業技術院標準部長 向井保氏と、新日本製鉄副社長 中川一氏が、21世紀における鉄鋼業の方向、その中で標準化、品質管理等の考え方について対談された(詳細標準化ジャーナル12月号参照)。

2) 工業標準化事業の平成5年度業務計画

工業技術院より平成5年度の工業標準化事業を進めるにあたっての国の予算が必要なもののについて事業計画を求められた。標準化委員会の各分科会毎にとりまとめ作業を

行い、標準化センターから12月16日までに提出の予定。

3) 第2回鋼材JIS見直し調査委員会(三者構成委員会)

平成5年度に見直し時期の来る鋼材関係39規格についての中間調査結果を討議(11月10日)。

見直し案は、確認12規格、改訂23規格、廃止2規格、検討中2規格である。しかし全体39規格の中、鋼管関係29件はさらに検討を進め、他と一緒に第3回三者構成委員会(平成5年2月)に答申する。

4) JISC鉄鋼部会圧力容器用鋼材専門委員会

11月27日開催、高温圧力容器用高強度Cr-Mo鋼鋼板、高温圧力容器用高強度Cr-Mo鋼鍛鋼品(以上新規)、圧力容器用鋼板の超音波探傷検査方法(改正)が審議、議決された。

2. 標準化活動状況 (委員会・分科会活動)

(1) 標準化委員会/JP1分科会

11月9日第2回分科会開催。JISA5526(H形鋼ぐい)、JISA5528(熱間圧延鋼欠板)の見直し調査結果を審議。結論は、両規格とも「確認」で鋼材JIS見直し調査委員会に答申。長期計画および平成5年度計画の策定開始。

平成5年度の主な活動は、今年調査を積み残したJISG3129(鉄塔用高張力鋼)、G3114(耐候性鋼)、G3191(棒鋼とバーインコイルの形状、寸法)、G3194(平鋼の形状、寸法)の見直し調査、建築用鋼材規格作成着手およびISO規格対応になる予定。

(2) 標準化委員会/JP2分科会

11月25日第1回分科会開催、分科会運営方針を審議。長期計画および平成5年度計画の策定開始。平成5年度は、平成6年にJIS見直し調査時期の来る4規格についての検討開始とISO規格作成活動対応になる予定。特に前者は、ASMEとヨーロッパの圧力容器設計理念の相違点を整理して、JISとISOの整合化の進め方を明確にする事も来年の重要な活動となる。

(3) 標準化委員会/JP3分科会

「鉄鋼標準化事業中長期の基本方針」に基づいて、JP3分科会の活動計画を策定すべく、各委員担当の規格を中心にJIS規格の見直しとISOとの整合化予定の検討に着手。

(4) 標準化委員会/JP4分科会

ISO/DIS6931-1(ばね用ステンレス鋼線)はステンレス協会より条件付反対の回答案が提出されたので、各委員に書面審議を依頼したが、とくにコメントはなく工技院に回答。

(5) 標準化委員会/JP5分科会

今回のWG/リーダー・幹事会(12月16日)で、「鉄鋼標準化事業中長期の基本方針」に基づくJP5分科会の中長期活動計画を討議すべく、各WGのリーダーと幹事でJIS規格見直しとISOとの整合性検討予定の作成に着手。TC17/SC16のCD10606(最大荷重時の伸び)等2件の書面審議を実施し、コメントを年内にSC幹事国に送付。

(6) 標準化委員会/JP6分科会

11月17日第3回分科会開催。分科会で検討した来年度見直しの鋼管JIS29規格の処置検討結果を第2回鋼材JIS見直し調査委員会に中間報告。この結果を踏まえて来年2月の最終委員会までにどのようにまとめるか作業の進め方を具体的に討議。

(7) 標準化委員会/JP7分科会

11月11日第3回分科会開催。ISO/TC67関係(TC67総会、TC67/SC1、TC67/WG2)の国際会議への出席報告が主体。又この中でTC67/SC1(ラインパイプ)については、ECISS/TC29/SC2会議(12月16、17日)で引き続き検討されることになっているため日本の対応方針について11月25日に第4回分科会を開催、ここでラインパイプ全体の規格体系の考え方の整理(ISO3183-1、2、3、の体系)、WG2で検討中のISO9000シリーズの取扱い方、SI単位の丸め方等を討議し、新日鉄より日本代表を1名送ることを決定。

(8) 標準化委員会/JE1分科会

1) ISO/TC17/SC20国際会議出席

・日 時：平成4年11月3日～6日

・場 所：ベルリン

・出席者：8ヶ国(UK、USA、ドイツ、チェコ、ノルウェー、イタリア、フランス、日本) 合計17名。日本は新日本製鉄(桃木主査)、住金(三浦委員)、TC17事務局(三宮)が出席。

・議 題：ISO377-1(機械試験用試験片採取)の改訂案を詳細審議。

・討議内容：とくに試験片採取位置の基本的考え方を重点的に討議

欧州…1/3幅、1/6厚さ

米国、日本…1/4幅、1/4厚さ

結局多数決で欧州意見が採用された。

従って、特に規定のない限り製品規格では、1/3幅、1/6厚さが基本。

ただし、日本が1/4幅、1/4厚さを固執するならば、次回会議(1993年)にて再討議を予定。

2) 長期計画および平成5年度計画策定開始

平成5年度は、現在進行中の各委員の規格毎の研究結果に基づく活動、及び前述の国際会議対応となる。

(9)標準化委員会/JE2分科会

JIS改正6規格の追認として改正案を作成し、工業技術院に提出。

(10)標準化委員会/JE4分科会

共同研究会第71回鉄鋼分析部会(11月5、6日、於大阪)にて鉄鋼関連分析標準化に関する新体制案が承認され11月よりJE4分科会が発足。従来のSC1分科会は発展的解消。ISO/TC17/SC1諮問部会は継続される。JE4分科会とSC1諮問部会は同一メンバーで会議も一体化し、国際標準化の場では幹事国の立場に立った日本コメントを出していく。

(11)標準化委員会/JE5分科会

11月20日第3回分科会開催。分科会として中長期計画に取り組むべき項目を抽出。

3. TC17幹事国業務

(1)国際規格発行に関する進捗状況

- 1) ISO規格が発行されたもの：1件
ISO 11082(SC16)コンクリート補強用溶接金鋼認証方法 (11-15)
- 2) DIS改訂版が中央事務局へ返却されたもの：1件
DIS 10702(SC1)N-蒸留滴定法 (12-01)
- 3) 規格発行についてSC議長決定がなされたもの：4件
DIS 10702(SC1)N-蒸留滴定法(12-01)
DIS 5000(SC12)溶融Al-Siメッキ冷延鋼板 (11-25)
DIS 5001(SC12)ホーロー用冷延鋼板 (11-25)
DIS 5951(SC12)高成形性高降伏点熱延鋼板 (11-25)
- 4) DIS投票結果及び各国コメントがSCへ回されたもの：7件
DIS 9329-2(SC19)高温圧力用途用継目無鋼管 (10-22)
DIS 9329-3(SC19)低温圧力用途用継目無鋼管 (10-22)
DIS 9330-2(SC19)高温圧力用途用ERW鋼管 (10-22)
DIS 9330-3(SC19)低温圧力用途用ERW鋼管 (10-22)
DIS 11692(SC4)熱間析出硬化型フェライト-パーライト構造用鋼 (11-17)
DIS 4955(SC4)耐熱鋼 (11-02)
DIS 683-18(SC4)磨き棒鋼 (11-26)
- 5) DIS投票が開始されたもの：2件
DIS 10698(SC1)Sb-無炭原子吸光法 (11-19)
DIS 3575(SC12)連続溶融亜鉛メッキ鋼板 (11-27)
- 6) DISが登録されたもの：2件

DIS 10700(SC1)Mn-原子吸光法 (11-27)

DIS 10701(SC1)S-吸光光度法 (11-27)

7) SCがDIS登録を申請したもの：1件
DIS 10124(SC19)圧力用途用鋼管-層状欠陥検出のための超音波探傷試験 (11-20)

8) CDが登録されたもの：1件
CD 12662(SC16)PC鋼材に対する認証要領 (11-26)

(2)TC17全般

- 1) ISO/TC17 Annual report
中央事務局からAnnual reportデータ入手。チェック後修正依頼。
- 2) ISO/TC17/EC会議準備
来年5月又は6月、パリで開催予定の同会議の資料準備完了。
12月7日～20日欧州主要国と事前協議。
北米は来年1月又は2月予定。主要議題は、①TC17内規格作成のスピードアップ
②TC17総会とTC17/EC会議の開催時期、頻度③TC17 strategic policy statementの見直し④製品規格作成のガイド⑤TC17(steel)用ISO 9002の補足ガイドの5件。
- 3) ISO/TC17/SC20国際会議出席(1名)
TC17での検討課題は、ステンレス鋼等で使用されているサンプリングに関するコード表(Terminologyに関するもの)をTC17内の規格として制定できないか?の検討。その他は2.1項 JE1分科会報告参照。

4. TC17/SC1幹事国業務及び関連業務

(1)承認段階(Stage4)：

- 1) DIS 10702(N-蒸留滴定法)；DIS最終版を中央事務局へ送付(12-01)。
- 2) DIS 10698(Sb-無炭原子吸光法)；DIS投票開始(11-19)。締切1993-05-19。
- 3) DIS 10697-2(Ca-原子吸光法)；DIS投票中。締切1993-04-29。
- 4) DIS 10700(Mn-原子吸光法)；仏訳完。DIS登録完(11-27)。
- 5) DIS 10701(S-吸光光度法)；仏訳完。DIS登録完(11-27)。

(2)委員会段階(Stage3)：

- 1) CD 10278(Mn-プラズマ)；コンビナーが最終CD作成中。
- 2) CD 10719(GC-燃焼赤外線吸収法)；コンビナーが最終CD作成中。
- 3) CD 10720(N-融解熱伝導率法)；再実験準備中。
- 4) CD 439(Si-重量法)；最終CD作成中。
- 5) CD 11652(Co-原子吸光法)；再実験準備中。
- 6) CD 11653(Co-電位差滴定法)；再実験準備中。

7) CD 4941(Mo-吸光光度法)；コンビナーが最終CD作成完了(11-27)。

(3)作成段階(Stage1/2)：WG32～36及びad hoc group 活動のための参加試験所募集結果下記のとおり。

- 1) WG 32(Ni,Cu,Co-ICP法)；12ヵ国。32試験所。
- 2) WG 33(Mo,Nb,W-ICP法)；7ヵ国。21試験所。
- 3) WG 34(微量B-吸光光度法)；10ヶ国。21試験所。
- 4) WG 35(微量B-ICP法)；11ヵ国。20試験所。
- 5) WG 36(高S-HFIR法)；9ヵ国。23試験所。
- 6) Ad hoc group14-1(微量C)；7ヵ国。13試験所。
- 7) Ad hoc group14-2(XRF-基準法)；8ヵ国。13試験所。

5. TC67/SC5幹事国業務

(1)第2回TC67/SC5国際会議決定事項の処理状況

- 1) TC67/SC5 Pメンバー、Oメンバーに対し、第2回国際会議の決議を連絡。
- 2) TC67/SC5 Pメンバー、Oメンバーに対し、新たに設置のWG2(継手性能評価試験方法)とWG3(耐食性油井管)への参加問合せのためQuestionnaireを送付。
- 3) 中央事務局に対し、SC5に割当てられたAPI資料の内API RP5C1とAPI Bul5C2、5C3、5C4を作業計画より外す決定をしたことを連絡。
- 4) TC67 Secretaryに対し、API Spec 5D(ドリルパイプ)のISO化をツールジョイント付ドリルパイプに変更したことを連絡。TC67/SC4との間の調整を要請。

(2)第16回TC67/SC5諮問部会

11月11日に開催。第2回TC67/SC5国際会議の結果を報告。

6. 国際会議

ISO/TC17/SC19国際会議 1993年5月12日～14日(ミラノ)

ISO/TC17/SC11国際会議 1993年5月13日、14日(ワシントン)

ISO/TC17/SC12国際会議 1993年6月8日～11日(マンチェスター)

ISO/TC17/SC20国際会議 1993年6月以降(未定)

ISO/TC17/SC4国際会議 1993年6月以降(未定)

ISO/TC17/EC国際会議 1993年5月又は6月(パリ)

ECISS/TC29/SC2会議 1992年12月16、17日(デュッセルドルフ)